



昨年暮れにポートメッセなごやで「ITSワールド2011」が開催された。筆者も大学枠で参加し車いすナビシステムに関する研究を紹介した。内容は、車いす利用者に最も疲れない経路をナビ画面から直感的に伝達し案内するための方法論であり、これまでゼミ生とともに研究してきた主な結果の展示であった。

このイベントは「名古屋モーターショー」と同時開催のため、わが展示ブースにも多くの人が立ち寄りパネルやデモを見学して頂いた。学会発表とは異なり、車いす利用者や製作の実務家あるいは福祉施設や役所の人たちの訪問があつて、貴重な指摘や助言を頂いた。かような広がりで内容が理解され反応を得ることはめったになく、研究が多様な人や社会と深く関わっていることを再認識した。

展示にあたりゼミ生らを中心に多くの人の協力を得た。みんなでブースの設営や来訪者への説明など、慣れない仕事に取り組み汗を流した。大変ではあつたが、大きなイベントをなし遂げたという達成感や、「研究紹介」など他大学との交流もあり、貴重な体験をできた。これまでも、

Geronteck 国際会議や ITS 北京会議での発表や ITS マドリッド参加などにおいて、院生やゼミ生も共同参加するなど貴重な体験をしている。また、研究に関するゼミ生の応募論文が受賞し、さらに学長表彰を受けるなど予期せぬ受賞に喜びを分かち合つてきた。

筆者は70年代の国の大型プロジェクトに参画以来、交通システム(ITS)研究を通して内外の多くの人と知り合い交流をしてきた。例えば研究のことで話がつきない。また、この分野の教育・研究を通して多くの学生諸君と交流があつた。今回のイベントを経て、人の広がりや研究することの意義をより強く感じている。このような環境に身をおけることの幸せを思い、今後ともよりよい研究を進めるとともに、周りの若者達へこの思いを伝えていきたい。

*ITS: Intelligent Transport Systemsの頭字語で、高度道路交通システムを意味する。